

大反響!
アンコール掲載

安齋らら 105cmJカップ
神乳犬パンチ

ヌルヌルでアワアワ
つばさ舞 藤かんな

美女ゴルファー総勢24人
裏ネタ名鑑

ピキニ大発掘
松本伊代

美人シェフ
恥じらい
初ヌード
袋どじ

スクープ

美女医
が解説

女性器の絶頂直前、ココを押して

下着!谷間!美脚!女子アナのエッチなSNS

昭恵晋二の別荘手放した

安倍家の相続 最終結論



5月場所が100倍面白い
白鵬VS稀勢の里
新弟子分捕り争抗大図解

2023 May 5.26
価格530円
初夏のスペシャル躍進号

名医がこっそりやっている 薬に頼らない楽健康法

9人が本誌だけに開陳!

「80歳の壁」和田秀樹医師は13種類サプリを飲んでいる
「ミスター血圧」は健康ゆすりと横向き睡眠
水シヤワー 16時間断食 7通り漢方からED予防法まで

遺族は「愛人と主治医が結託」と訴えた
東証175企業 前社長が認知症で
病院に3億円寄付「トラブル

支持率急上昇 驕れる岸田が麻生派を激怒させた

大谷翔平「超人育てた兄と姉の愛」
有名企業に超割安なお宝銘柄25大注目
孫正義 Paypay × 三木谷浩史 楽天 どちらのペイにつくべきか?

ビートたけし
一流の運
イチローとの
対話

「お買い得品、！」

三菱UFJ、日本テレビほか

有名企業が!? な注目銘柄 25

業績良好、財務健全にもかかわらず、株価が割安な大企業の「低PBR銘柄」が関係者の注目を集めている。東証プライム市場の約4割を占めるとされる「お宝株」は今が仕込み時なのか——専門家に聞いた。

企業が必死に動き始めた

「プライム市場、スタンダード市場に上場する企業は資本コストや株価を意識した経営を推進せよ」——3月末、東京証券取引所はPBR（株価純資産倍率）が1倍を下回る上場企業などに向けて、株価水準を引き上げるための具体策を開示。実行するよう要請した。取引所が企業に要請する内容としては異例で、国内外の投資家が注目している。

マーケットバンク代表の岡山憲史氏が解説する。「PBRは株価を1株あたり純資産（資産から負債を差し引いたもの）で割って算出され、株式価値が純資産に対してどの程度の水準にあるかを示す指

標です。PBRが1倍を下回る場合、市場から見た企業の成長性などの評価が低いことを意味する。企業にとっては資金調達に難しくなるなど、さらに企業価値が低下する問題が発生する可能性があります」東証が上場企業に株価水準の改善要請を行なった背景には、欧米の取引所と比べてPBR1倍割れの企業の比率が高いことへの強い危機感があるという。

マーケット・アナリストの平野憲一氏（ケイ・アセット代表）が指摘する。「東証による市場再編から1年が経ちますが、日本株は欧米に比べて稼働力が見劣りしたままです。

日本の代表的企業で構成されるTOPIX（東証株価指数）500ではPBR1倍割れ銘柄が40%超に達するのに対し、米国のS&P500の採用銘柄ではわずか5%程度。トヨタ自動車や三菱UFJファイナンシャル・グループ（FG）といった日本を代表する優良企業でも1倍割れしています。このままでは投資家から『日本企業は株価を引き上げる意識が乏しく魅力がない』とみなされ、国際競争に取り残されてしまおうと東証は危惧しているようです」

そうしたなか、東証の改善要請を前にいち早く動き出した企業もある。

「東証の要請方針が1月下旬に掲げられると、大日本印刷は2月の経営基本方針のなかで資本効率改善のために過去最大の自社株買いを表明し、『PBR1倍超の早期実現』を明言しました。シチズン時計も2月の決算発表

「プロが厳選した

パナソニック、京セラ、三

え、こんな 株価が超割安

に合せて発行済み株式の25%余りにあたる7500万株まで自社株買いを行なうと発表。両者とも、発表後は株価が急騰し、PBRも1倍前後まで上昇しました」（同前）

企業がPBR1倍割れを解消するには、「株価を上げる」か「1株あたりの純資産を減らす」必要がある。前者は容易なことではないが、後者は（市場に回る株式数を減らす）自社株買いにより実現できる。

前出・岡山氏が言う。

「実際に2月以降はPBR1倍割れ銘柄が買われ始めました。東証の方針を投資のチャンスと捉えたのは海外投資家も同様です。米国の著名投資家ウォーレン・バフェット氏は4月の来日時に日本株に強気な見方を強調しました。競争力のある優良銘柄を割安価格で買う投資手法で知られるバフェット氏は、かねて日本のPBR1倍割れの優良企業に注目しており、20年8月までに伊藤忠商事、丸紅、三菱商事などの5大商社に投資して大きな利益を手としています」

仮に、企業の収益性や将来価値を示すその他の指標が好調な場合、PBR1倍割れは「将来性が

高いのに市場では評価されていない銘柄」となり、投資家からすれば「割安」な「お宝銘柄」の可能性が高いことを示す。

「PBR1倍割れ銘柄」の今後には国内外の投資家の期待が集まるなか、専門家が目にする25銘柄を次々からの表に示した。

飲料大手のコカ・コーラ（ラトラーズジャパンホールディングス（HD））や石油元売り国内2位の出光興産、総合家電大手のパナソニックHD、電子部品・電気製品大手の京セラ、成長著しいホームセンター大手のコーナン商事など、日本人に馴染み深い有名企業が「PBR1倍割れ」の注目銘柄として挙げられている。

東証が「PBR1倍割れ」に
「喝」を入れて、風雲急!
これは大化け期待か!?

え、こんな有名企業が!
株価が超割安な注目銘柄25

『週刊ポスト』次号(6月2日号)は5月22日(月)発売です
一部地域で発売日
が異なります。

企業名(証券コード)	株価	PBR	注目理由
UACJ(5741)	2714円	0.52倍	アルミ圧延能力で世界3位。13年に古河スカイと住友軽金属が経営統合。23年3月期は大幅減益だが配当は前期同額を維持予定
パナソニックHD(6752)	1309円	0.88倍	総合家電大手。電気自動車や自動運転など新しい技術分野にも積極的に取り組み、今後の需要増が期待される
大真空(6962)	696円	0.64倍	人工水晶から一貫生産に強みを持つ水晶デバイス大手。スマホ需要減で業績も低迷したが、24年3月期以降は業績急回復の期待大
京セラ(6971)	7179円	0.87倍	セラミック関連に強みを持つ電子部品大手。多角化経営を標榜し、通信・情報機器、半導体関連部品、複写機なども手がける
コーナン商事(7516)	3630円	0.74倍	関西が地盤のホームセンター大手。大型店舗展開に注力。今年9月末までに上限100万株の自社株買いを予定している
萩原工業(7856)	1282円	0.66倍	ブルーシートのトップ企業。23年10月期の年間配当予想は、前期比14円増の50円となる大幅増配を見込んでいる
佐藤商事(8065)	1447円	0.55倍	金属専門商社。トラック、建機向けの鋼材が主力。貴金属製品の取り扱いで販路拡大。配当利回りは4.35%と高い
ニチモウ(8091)	3130円	0.50倍	水産品と漁網・漁具などの海洋事業が柱だが、機械事業や物流事業なども多岐に手がける。配当利回りは4.47%と高い
三菱UFJFG(8306)	848.3円	0.62倍	三菱UFJ銀行などを傘下を持つ国内最大の金融グループ。強力な三菱グループを背景に、グローバル展開やDX化で先行している
野村HD(8604)	477.7円	0.46倍	証券国内最大手。個人向け営業を重点強化。異業種提携に積極的でアジアに立脚する国際的金融グループを目指す
フジ住宅(8860)	703円	0.53倍	大阪地盤の住宅最大手。注文住宅と分譲マンションが事業の柱。足元の業績は堅調に推移し、24年3月期も3期連続の増配の見通し
丸全昭和運輸(9068)	3470円	0.62倍	京浜発祥の総合物流企業。JFEや昭和電工、ライオンなどが主な顧客。23年3月期年間配当予想は前期比5円増の90円を見込む
日本テレビHD(9404)	1225円	0.37倍	民放大手。読売グループでテレビ放送草分け。視聴率首位を継続している。動画配信サービス「Hulu」の収益が順調に伸びている
テレビ朝日HD(9409)	1568円	0.40倍	朝日新聞系の民放大手。「ABEMA」などネット収入が伸びる。23年3月期の年間配当を従来計画の40円から50円へ増額修正を発表
J-POWER(9513)	2208円	0.36倍	電力卸。04年に民営化。電源は石炭火力と水力が中心で、電力各社に供給。再生可能エネルギー開発にも注力している

※企業名は証券コード順。三晃金属工業とサンセイランディックは東証スタンダード市場、他はすべて東証プライム市場。単元株数はすべて100株。株価、PBRは5月8日終値。HDはホールディングス、FGはフィナンシャル・グループの略

日本テレビHDとテレビ朝日HDは、いずれもPBRは0.5倍を割り込んでいて、配当利回りが3%を超えており、注目です(岡山氏)

もちろん、「PBR1倍割れ」の全銘柄が有望とは限らない。「海外投資家が日本株に投資する際は、企業イメージに左右されるのではなく、業績や将来性、市場環境などを細かく調査したうえで、投資の可否を判断しています。その観点を持ち、PBRが低いまま据え置かれてい

る一方、業績などの成長性が十分にあると考えられる銘柄が「今が買い」と言えるでしょう。実際、まだ割安で放置されている大手有名企業株は、ここに挙げた以外にも残さ

れているはずですよ

「PBR1倍割れ」は割安か否かを判断する指標の一つに過ぎないことに留意しながら、検討を進めるのがよさそうです。

プロが注目! 「PBR1倍割れ」銘柄25

企業名(証券コード)	株価	PBR	注目理由
大林組(1802)	1146円	0.84倍	最大手ゼネコンの一角。関西発祥だが、首都圏でも大型プロジェクトに実績。22年3月期は大幅減益ながら配当を維持。23年3月期は前期比10円増配の42円を予定
奥村組(1833)	3375円	0.73倍	免震技術やトンネル施工技術に強みを持つ中堅ゼネコン。23年3月期の配当は前期比51円増の223円を見込む
新日本空調(1952)	1952円	0.82倍	三井系の空調設備工事会社。原子力空調に強み。精密機器などの設備投資や都心を中心とした不動産関連への投資事業が堅調
三晃金属工業(1972)	4025円	0.68倍	日本製鉄系の金属屋根大手。23年3月期経常利益は従来予想を上回る前期比39%増で着地。年間配当も従来予想の155円から185円に増額。配当利回りは4.60%と高い
コカ・コーラボトラーズジャパンHD(2579)	1488円	0.56倍	国内コカ・ボトラー最大手。飲料業界でコカ・コーラは高い信頼性を持ち、安定した財務体質と市場シェア拡大が見込まれている
サンセイランディック(3277)	881円	0.65倍	権利関係が複雑な不動産を買い取り、関係調整をしたうえで再販する底地ビジネス首位。25年にプライム市場への上場を目指す
出光興産(5019)	2889円	0.52倍	石油元売り国内2位。19年4月に昭和シェル石油と経営統合。24年2月までに上限600億円の自社株買いを実施予定としている。配当利回りは4.15%と高い
JFEHD(5411)	1633円	0.45倍	NKKと川崎製鉄が経営統合した持ち株会社。粗鋼生産で国内2位のJFEスチールが中核。配当利回りは4.90%と高い
東京製鐵(5423)	1363円	0.84倍	電炉大手。建材が主力で国内需要が好調。25年を目途に愛知県の工場での車の大型部品などに使われる鋼板の生産を開始予定
大同特殊鋼(5471)	5290円	0.61倍	特殊鋼専業で世界最大級。日産、ホンダなど自動車向けが主力。強い競争力を背景に業績は堅調。配当利回りは4.35%と高い

一方、ブルーシート製造国内トップの萩原工業や漁網・漁具製造のニチモウなど、一般消費者には馴染みのない銘柄もあり、その顔ぶれはバラエティに富む。

そうしたなか、平野氏が「割安株に注目するパフェット氏が、商社の次に買う日本株」として大胆に予測するのは「建設業界」だ。

「建設セクターには、もの言う株主」として知られる海外ファンドが大株主の企業が少なくなく、その要求に応じて今後株主還元を強化することが予想されます。なかでも特に注目されるのが、大手ゼネコンの大林組と中堅ながら配当利回りが5.93%と非常に高い奥村組です(平野氏)

さらに平野氏は、PBR1倍割れであることに加え、「物価上昇に連動

して株価が上がる傾向のあるセクター」として、銀行株、鉄鋼株、不動産株を挙げた。

「銀行株では国内最大の三菱UFJFG、鉄鋼株では大同特殊鋼と三晃金属工業、不動産株では大阪が地盤のフジ住宅に注目しています(同前)

前出の岡山氏が「海外投資家が狙いそうな銘柄」としてまず挙げたのは、飲料缶から家電、自動車、航空機などあらゆる工業製品の部品として用いられる金属素材を製造するアルミ圧延大手のUACJだ。「PBRが0.5倍と低く配当利回りが3.13%と高いのが魅力」という。

「オールドメディア」と揶揄されるテレビ局も、25銘柄の一角を占める。「動画配信サービスやインターネットテレビに活路を見出した民放大手の

後半生を黄金時代に

21万部ベストセラー
文字大きめで文庫化

70歳のたしなみ



昭和女子大学教授
坂東眞理子

大絶賛発売中
定価750円税別
小学館文庫